

2021年度 家庭的保育全国連絡協議会セミナーご案内 もっと広げよう、もっと深めよう家庭的保育とネットワークづくり

—保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながり—



NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会

新しい年度を迎えましたが、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いています。毎年行ってきたセミナーも昨年は初めて中止しましたが、こんな時だからこそ、皆とつながりたいとの思いから、今年はオンライン開催をすることとしました。

新型コロナウイルスにより、保育も私たちの日常も社会も変わりましたが、オンラインなら全国の家庭的保育者の皆さんと顔を合わせてつながれることに気づいたことは大きな収穫とも言えます。セミナーは毎年の活動テーマに基づき行っています。今年度の活動テーマは「もっと広げよう、もっと深めよう家庭的保育とネットワークづくり —保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながり—」です。家庭的保育にとって大切なのは「つながり」であり、いろいろな連携ができることにより、保育の質のレベルアップと社会的認知度が高められると思います。

今回のセミナーでは、厚生労働省の行政説明や基調講演に続いて、シンポジウムでは、コロナ禍を通じて改めて気づいた、つながることの大切さや喜び、家庭的保育だからできる、家庭的保育の良さを保育内容や保護者支援、連携などの実践事例から取り上げ、皆様と共有し、さらには広く社会に向けてアピールしていきたいと思えます。

家庭的保育者、職員の皆さん、地方自治体の担当者等の関係者の皆様他、全国から多くの方のご参加をお待ちしています。なお、当日はシンポジストのみならず、参加者の皆さんにもご自分の実践例をお話いただく予定です。（詳細は裏面をご覧ください。）

日 時 2021年5月23日（日） 13:00～17:00

方 法 オンライン開催

後 援 横浜市

テ ー マ 「もっと広げよう、もっと深めよう 家庭的保育とネットワークづくり
—保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながり—」

プログラム

行政説明 厚生労働省子ども家庭局保育課 13:05～13:35

基調講演 「家庭的保育とネットワークづくり」 13:35～14:05

尾木 まり（子どもの領域研究所所長・当協議会理事）

シンポジウム 「コロナ禍で改めてわかった家庭的保育の特長
—保育内容、保護者対応、支援—」 14:15～16:20

シンポジスト 瀬戸 美千子 神奈川県秦野市 家庭的保育者

鈴木 亮子 山形県長井市 家庭的保育者

細田 みゆき 東京都板橋区 家庭福祉員

藪本 久子 兵庫県神戸市 家庭的保育者

進行 相澤 春美（当協議会 事務局員）

コメンテーター 福川 須美（駒沢女子短期大学名誉教授、当協議会理事）

交流会 セミナー終了後、30分程オンラインで行います。 16:30～17:00

*オンラインの接続練習会を5月22日（土）9:00～11:00に行います。

初めてオンラインで参加をする方も安心してご参加ください！

申し込み・お問い合わせ

5月14日（金）までに、メールにて以下の内容をご記入の上、お申し込みください。

件名「セミナー申込」、本文に①お名前 ②会員番号（会員のみ）③自治体名 ④職種
⑤メールアドレス（オンライン時に使用するメールアドレス）⑥携帯番号 ⑦交流会
参加の有無

申込み先メールアドレス info@familyhoiku.org 担当者 石橋・後藤・管谷

「コロナ禍で改めてわかった家庭的保育の特長 ―保育内容、保護者対応、支援―」

セミナー当日は参加者の皆様からも、セミナーのテーマにあった事例をお話しいただきたいと考えています。できるだけ異なるタイプの事例をお話しいただきたいと思っていますので、お話いただける方は、以下の事例のように2~300字程度の概要を、事前に送っていただければ幸いです。(原稿〆切日 5月14日)

当日お話しいただく時間は5分以内でお願いする予定です。

宛先 info@familyhoiku.org
FAX : 045-489-6115

事例1 「地域との交流、つながり」

家庭的保育は保育者が地域に住んでおり、知り合いも多いことから、良く声を掛けてもらう等、地域の方にも子どもたちの成長を見守ってもらえていると感じる事が多くあります。

例をあげると、いつも出会うお店の方に「歩けるようになったね!」「あら?歩かないのなら、おばちゃんのお店で一緒に店番をして!」と声をかけられました。少人数であることから、立ち止まって応答できることで近隣の方々とより親しくなることができます。

毎年、商店街の年末スタンプラリーに参加し、お店の人たちとも仲良し。子どもの預け先を探している方々に近隣の方が保育室を紹介してくれることもあります。

事例2 「コロナ禍での子育て支援、つながり」

同じ保育者が対応することで保護者との関係が緊密になることは家庭的保育の特長です。しかし、コロナウイルスの感染拡大により保護者との繋がり方も以前より難しくなっています。昨年春の緊急事態宣言により保育室が休園となった時、私は一人ひとりの子どもが好んで手に取っている絵本を3冊ずつ、時間をかけそれぞれに選び家庭に届けました。今は休止していますが、子どもの好きな絵本の貸し出しもしています。

保育中の子どもたちの興味や関心、成長の細やかな情報提供が出来ることも、家庭的保育ならではの子育て支援だと思います。コロナ禍ですが保護者との相互理解を図る取り組みを今後も工夫していきたいと思っています。

事例3 「コロナ禍での保育内容、近隣とのつながり」

私の保育室では、コロナ禍で家庭でも外出自粛などいろいろな制限のある生活をしている子どもたちに、できるだけ従来通りの保育を!と、食事時や玩具の消毒他、安心安全な保育を見直し、保護者の協力も得て、子どもたちの普段の生活を確保するようにしています。

行事についても、合同運動会はできなかったものの、その分、大自然の中で親子参加型のお芋ほり会を楽しみました。前日に地域の方が、子どもたちが掘りやすいように、密にならないように!と畑の準備をして様々な配慮をして下さいました。

これらのことは、少人数で地域に根差した家庭的保育だからこそできる、そして普段から保護者ともきめ細やかに連携が取れる、家庭的保育の強みだな!!と、改めて感じています。